

三銃を支持するときは常に垂直ならしむべし。  
四左手の位置は操作中の基礎として最も正確なるを要す。

第八 立銃ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス。

號令

立ヲ——銃。

第一舉動 右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ右肘ヲ輕ク體ニ接ス

(其二)



(第六十一圖其一)

施行上の注意

一 上膊を軽く體に接し肘關節を屈して右手にて木被の所を握る。

(其一)



二 右手を持ち換ゆるときは左手を以て銃の動搖を制止すべし。

(其二)



第二舉動 右手ヲ以テ銃ヲ下ゲ小指ヲ木被ノ上ニ當テテ腰ニ支へ、同時ニ左手ヲ下ロス。(第六十一圖其二)

施行上の注意

一 上膊を體より離すことな  
く前膊を伸ばす如く行ふ  
べし。

(其二)



二 銃を下くる途中に於て小  
指を木被の方に廻はし之を垂直に腰に支持せしむべ  
し。

三 左手を不動の姿勢に復す。

四 銃を腰に支持したるときは、床尾飯と地面との間は擔  
銃より立銃の第三舉動に同じ。

第三舉動 銃ヲ靜ニ地ニ下ロス。

施行上の注意

銃を地上に下ろすことは、擔銃より立銃の第四舉動に  
同じ。

附 錄  
中 隊 教 練

目 次

- 第一節 中隊教練
- 第一 中隊教練の要則
- 第二 密集 編成
- 第三 隊形
- 第四 隊形區分
- 第二節 中隊縱隊正規隊形第一圖に於ける諸動作

- 第一 整頓
- 第二 擔銃及立銃
- 第三 捧銃及立銃
- 第四 行進
- 第五 方向を換へ
- 第三節 併立縦隊(應用隊形第三圖)に於ける諸動作
  - 第一 併立縦隊を作る
  - 第二 併立縦隊の行進
  - 第三 併立縦隊の方向變換
- 第四節 横隊(應用隊形第四圖)に於ける諸動作

- 第一 中隊縦隊より横隊を作る
- 第二 横隊より中隊縦隊を作る
- 第三 横隊の整頓
- 第四 横隊の行進
- 第五 横隊の方向變換
- 第五節 側面縦銃(應用隊形第五圖)に於ける諸動作
  - 第一 側面縦隊の行進
  - 第二 側面縦隊より同方向に中隊の横隊を作る
  - 第三 側面縦隊より同方向に中隊縦隊を作る

## 附 錄

### 第一節 中隊教練

#### 第一 中隊教練要則

【步兵操典第六十七】中隊は戦闘ノ單位ニシテ、中隊長ヲ核心トセル士氣結合ノ基礎ナリ。中隊教練ハ即チ中隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ、中隊長ノ號令又ハ命令ニ從ヒ舉止恰モ一體ノ如ク、整正確實ニ規定ノ運動ヲ實行シ得シムルヲ主眼トス。此趣旨ニ基キ能ク訓練セラレタル中隊ハ、豫メ習得セザル事ト雖モ中隊長ノ意圖ニ應ジ、制式ノ適當ナル

應用ニ依リ目的ヲ達シ得ルモノトス。

【步兵操典第六十八】中隊教練ヲ準備スル爲メ伍・分隊及小隊ヲ以テ本章ノ規定ニ從ヒ教練ヲ行フベシ。但シ號令中「中隊」ノ語ヲ「分隊」或ハ「小隊」ニ換フ。

【步兵操典第六十九】密集教練ニ在リテ小隊長ハ要スレバ其小隊ノ爲スベキ動作ヲ小聲ニテ豫告スルモ妨ゲナシ。

【步兵操典第七十】本草ニ掲クル諸運動ハ專ラ正面向ニ就キ規定ス。背面向ニ於ケル運動ハ之ニ準シテ行ヒ其要領ヲ會得セシムルヲ以テ足レリトス。

## 第二 密集編成

【步兵操典第七十一】中隊ハ之ヲ三小隊ニ分チ、中(小)尉ヲ以テ小隊長ト爲ス。兵員三等分スベカラザルトキハ第三小隊ニ一人ヲ減シ、次ニ第二小隊ニ一人ヲ減ズ。

小隊ハ兵卒身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ排列ス。其前後ニ立テタル二人ヲ伍ト謂フ。兵員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺グ。之ヲ缺伍ト謂フ。

後列兵ハ前列兵ノ背苦ハ背囊ヨリ胸マデ七十五珊米ノ距離ヲ取リテ正シク前列兵ニ重リ同方向ニ位置ス。

各兵卒ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リタルトキ、輕ク左隣兵ノ右臂ニ觸ルルヲ度トス。

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面トス

小隊ヲ若干ノ分隊ニ分チ、軍曹伍長ヲ以テ分隊長ト爲シ、小隊ニ於テ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス。其兵員ハ四乃至八伍トス。

小隊ノ兩翼ニ各其翼ノ分隊長ヲ置ク。其他ノ分隊長ハ分隊ノ中央伍ニ重リ、後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス。之ヲ押伍ト謂フ。

將校ニ缺員アルトキハ、特務曹長若ハ古參ノ下士ヲ以テ、下士ニ缺員アルトキハ上等兵ヲ以テ之ニ代フルモノトス。

### 第三 隊形

【歩兵操典第七十二】 密集隊形ハ軍隊ノ集結力ヲ鞏固ニシ、且ツ指揮官ノ掌握ヲ容易ナラシムルモノニシテ、敵火ノ効力甚シカラザル所ニ於テハ此隊形ヲ以テ停止シ運動スベキモノトス。又決戦ニ際シテハ其團結ノ威力ヲ逞クスル爲メ之ヲ戰線ニ用フルコトアリ。

【歩兵操典第七十三】 密集隊形ハ正規ト應用トニ分ツ、正現隊形ハ整正嚴格ニ演練シ以テ密集隊形ノ本旨ヲ發揮スベキモノニシテ、應用隊形ハ敏捷ニ之ヲ實際ニ適用スルヲ以テ目的トス。

【步兵操典第七十四】中隊ノ正規隊形ハ中隊縱隊トス

第四 隊形區分

(1) 正規隊形……中隊縱隊 (第一圖)

併列縱隊 (第三圖)

(2) 應用隊形……  
橫隊 (第四圖)

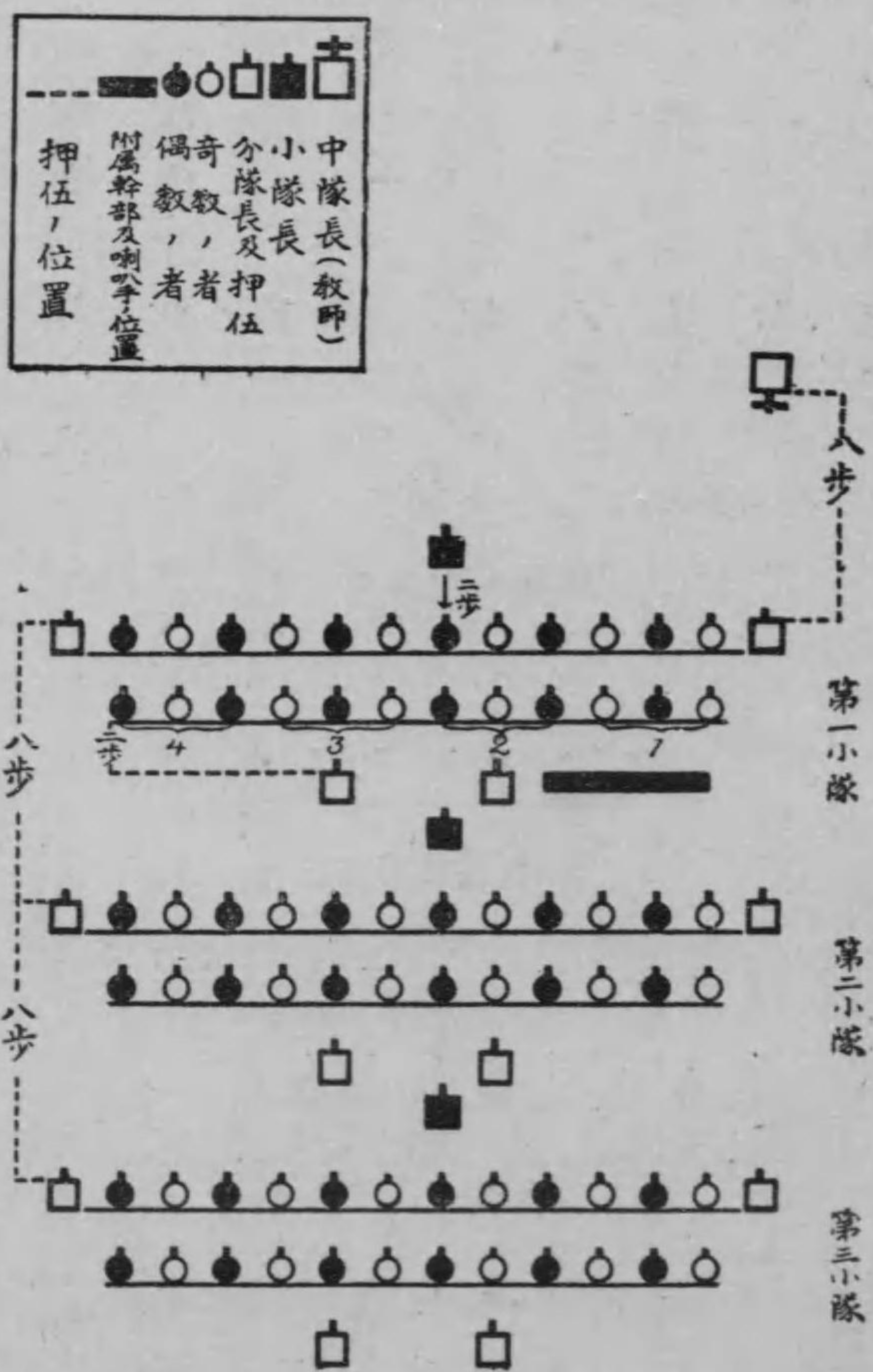
側面縱隊 (第五圖)

時宜ニ依リ八歩ノ距離ヲ伸縮シ、又小隊ノ順序ニ拘ラズ重疊シ或ハ小隊ヲ一列ト爲スコトアリ。

特務曹長・曹長及喇叭手ハ常ニ第一小隊ト共ニ運動ス、

施行上ノ注意

第一圖



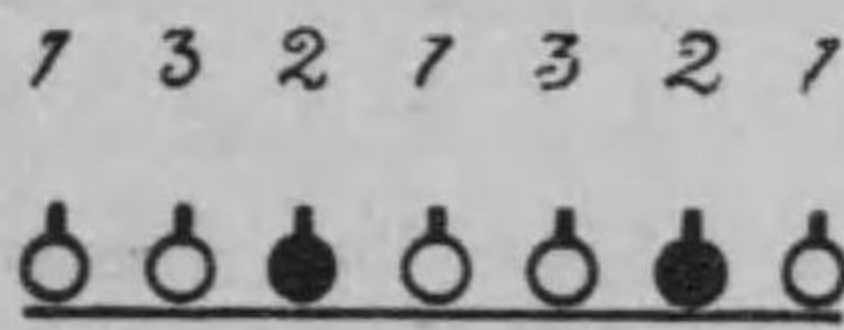


一中隊縦隊を各級混成にて編成するときは第二圖の如く整列せしめ一・二・三の番號を附し、左の順序に依り小隊を編成すべし。

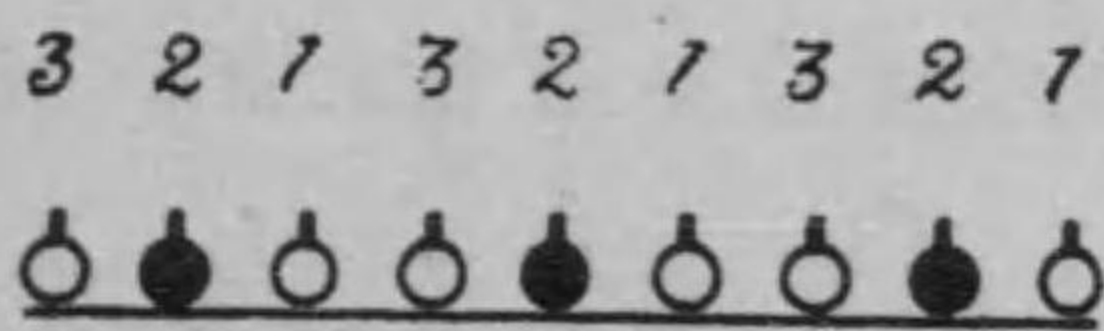
一番……第一小隊  
 二番……第二小隊  
 三番……第三小隊  
 若し人員三等分

圖 二 第

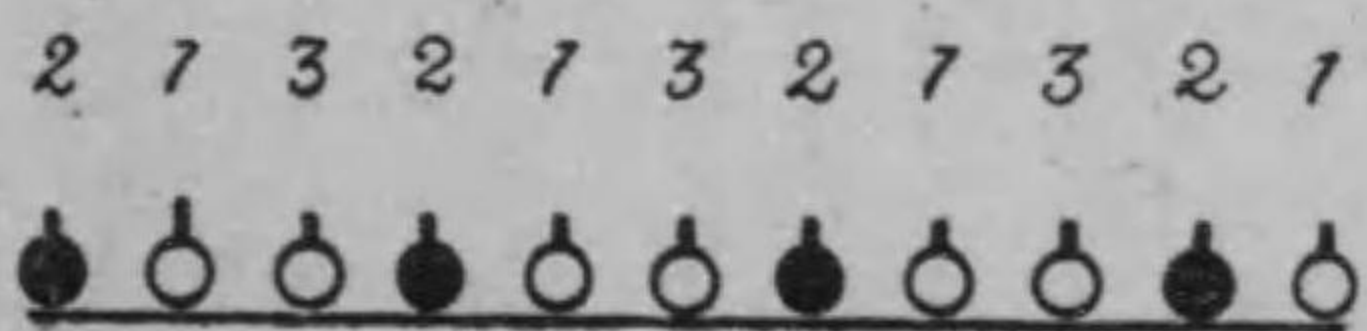
(年學一第等高)



(年學二第等高)



(年學一第常尋)



すること能はざるときは、第一小隊に多くするを可とす。

二中隊縦隊の隊形に在りては便宜「先頭」「中央」「後尾」小隊と稱ふることを得。

第二節 中隊縦隊(正規隊形)に於ける諸動作

第一 整頓

【歩兵操典第七十七】 中隊縦隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス。

嚮導何歩前へ。

先頭小隊ノ兩翼分隊長ハ銃ヲ擔ハズシテ前進シ、中隊長ハ

其位置ヲ正ス。(第六圖)

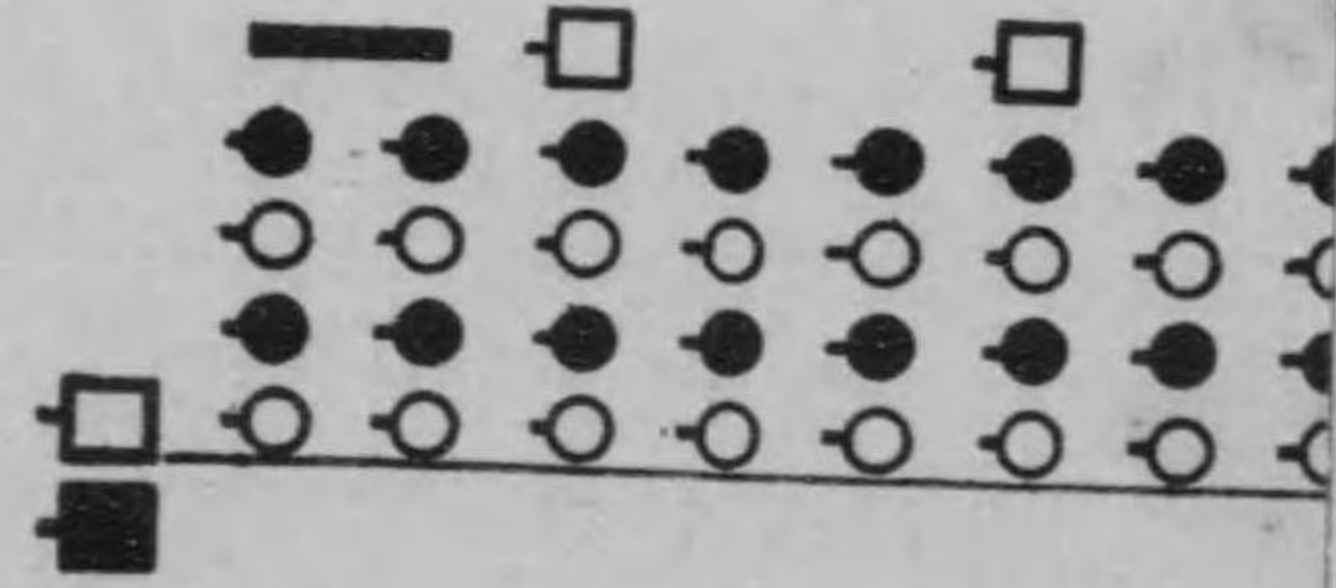
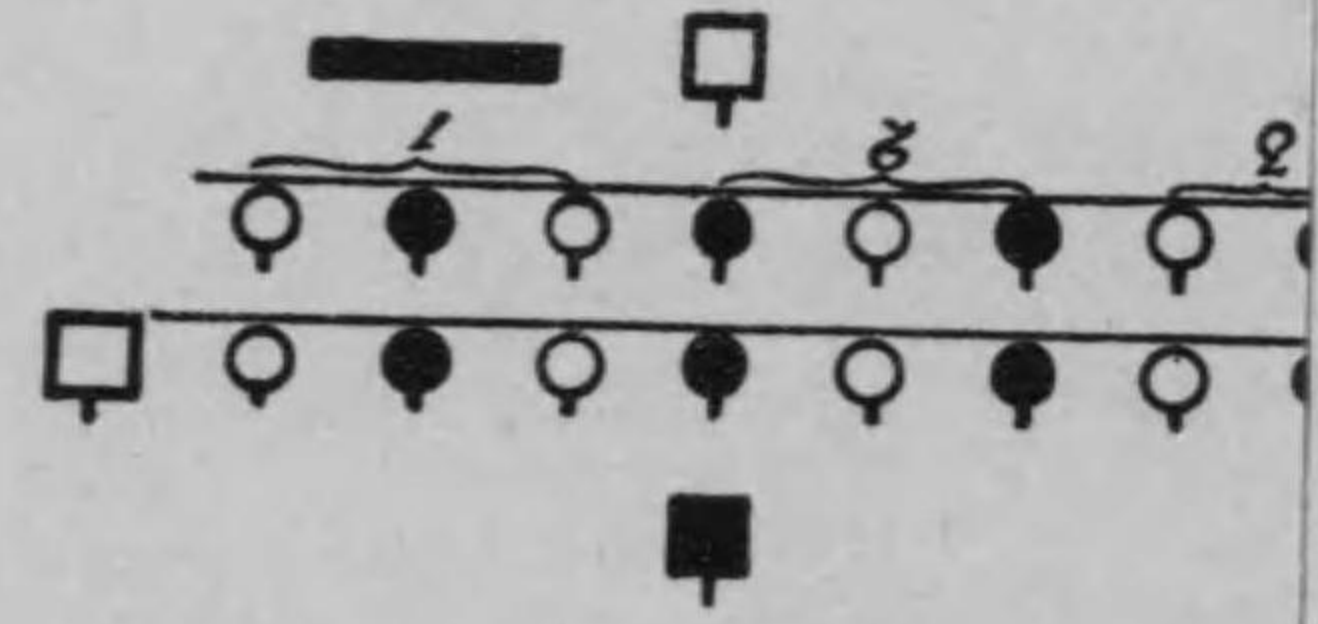
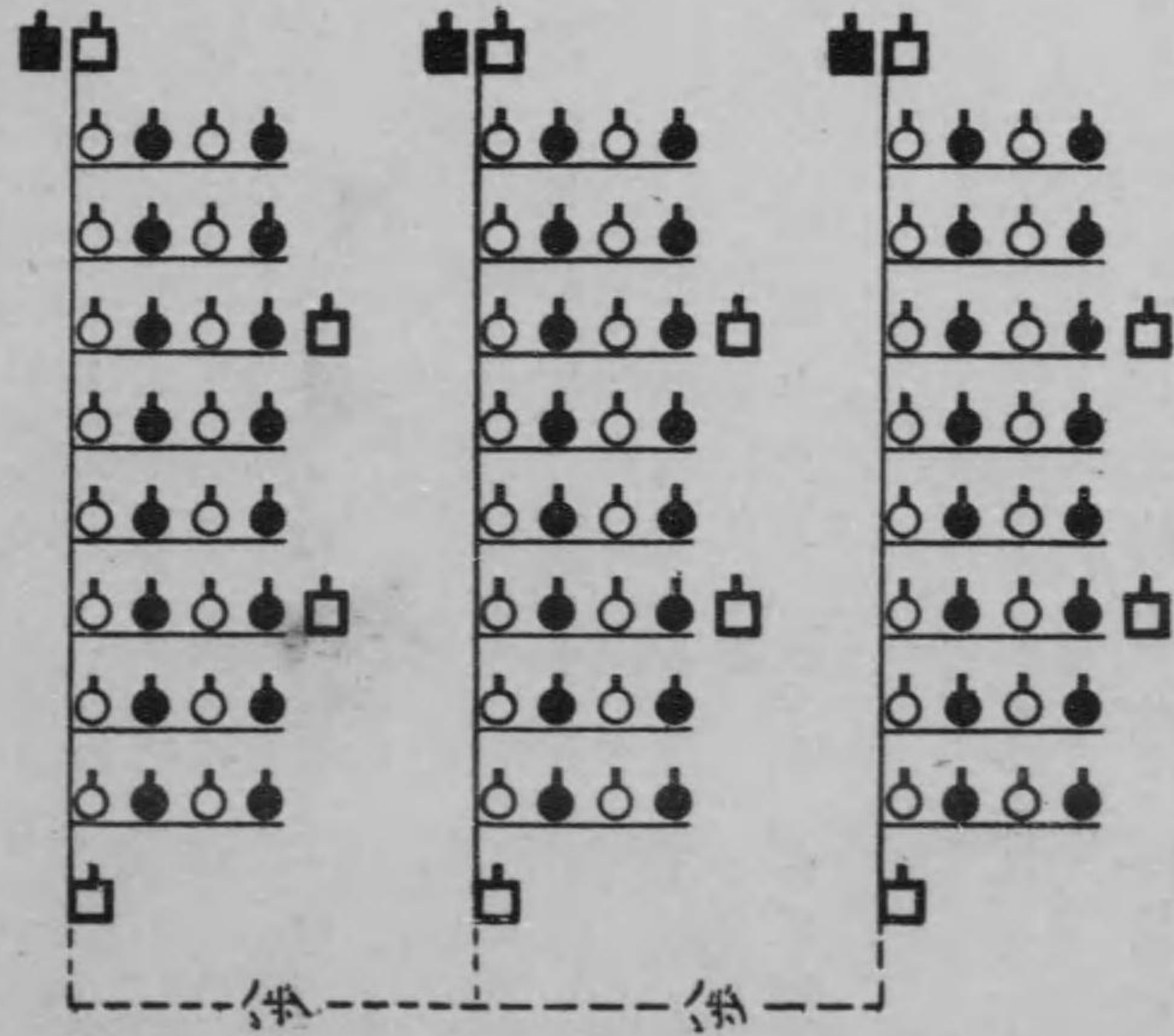
次ニ左ノ號令ヲ下ス。

右(左)へ——準

へ。直レ。

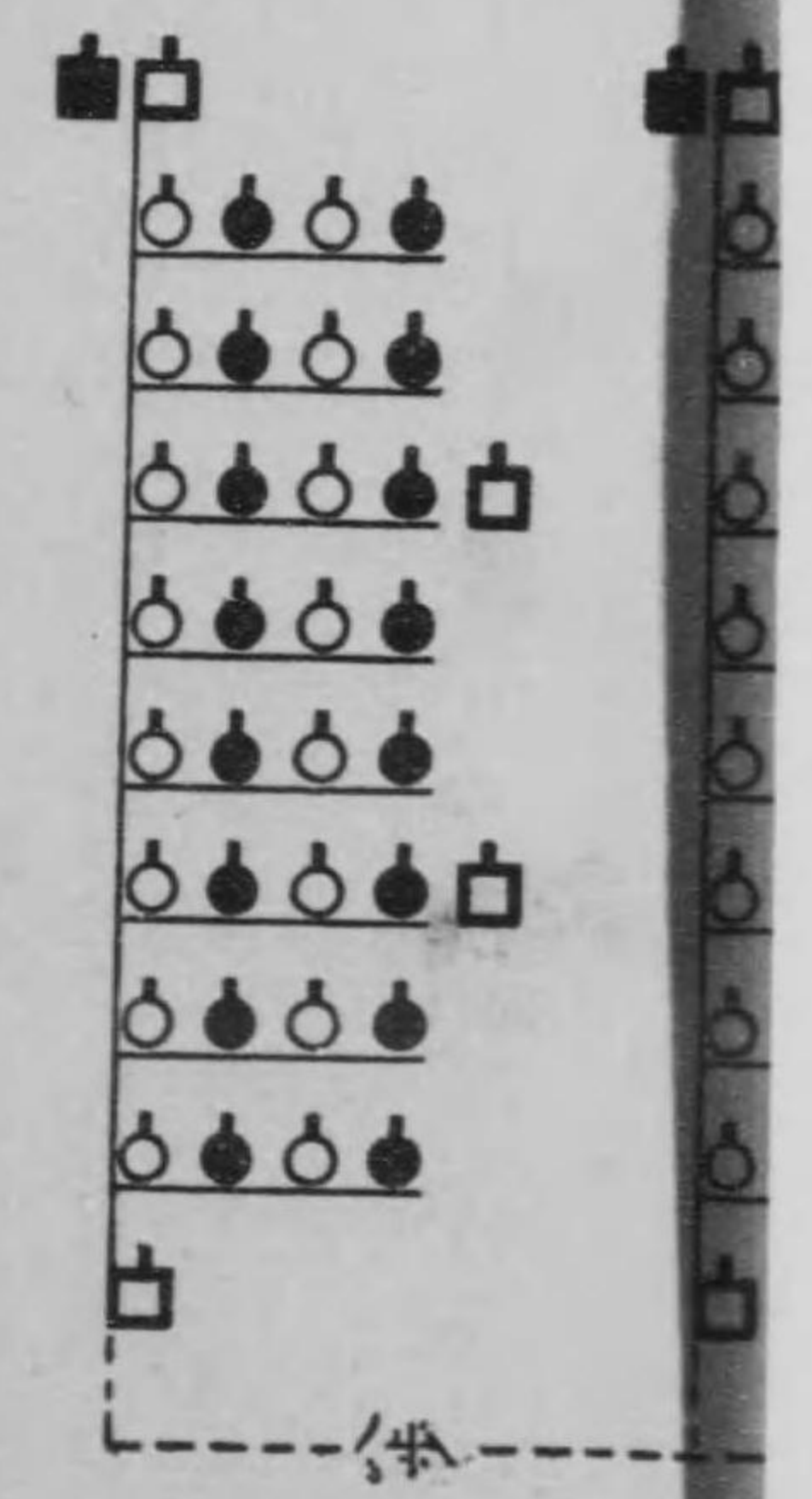
「準へ」ノ動令ニテ中隊ハ銃ヲ擔ハズシテ前進シ、最後ノ一步ヲ縮メ少シク整頓線ノ後方ニ止リ、次ニ頭ヲ右(左)ニ廻ハシ腦ヲ屈ム

第三圖

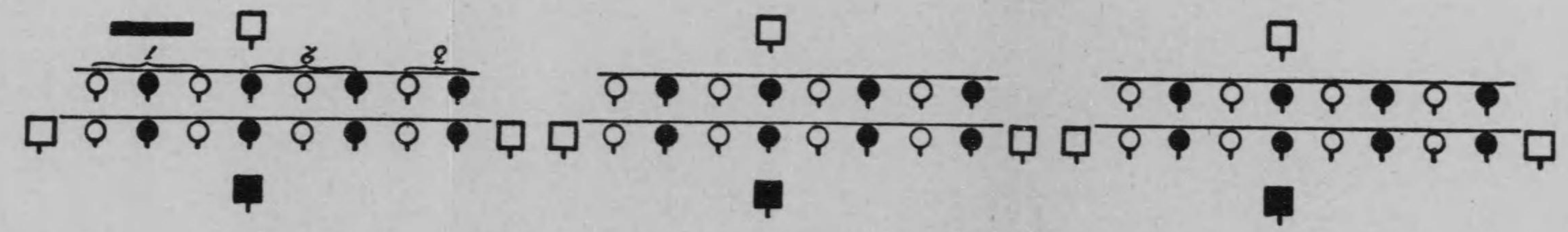


進シ最後ノ一步ヲ縮  
 メ少シク整頓線ノ後  
 方ニ止リ次ニ頭ヲ右  
 (左)ニ廻ハシ腦ヲ屈ム

圖



第 四 圖



第 五 圖

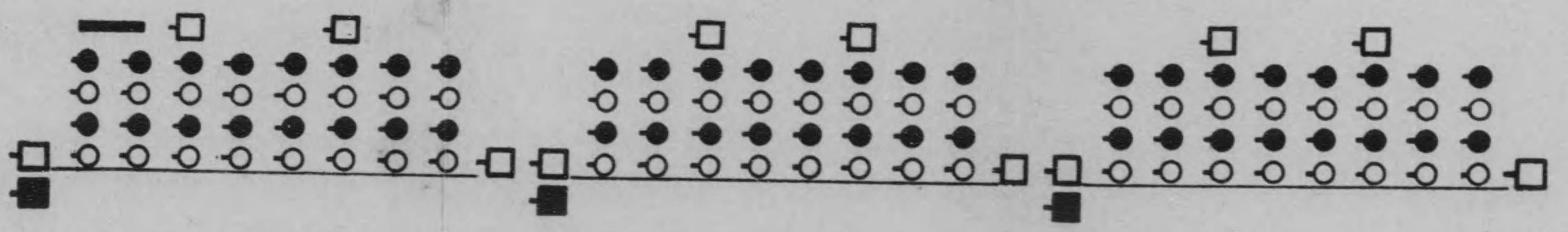
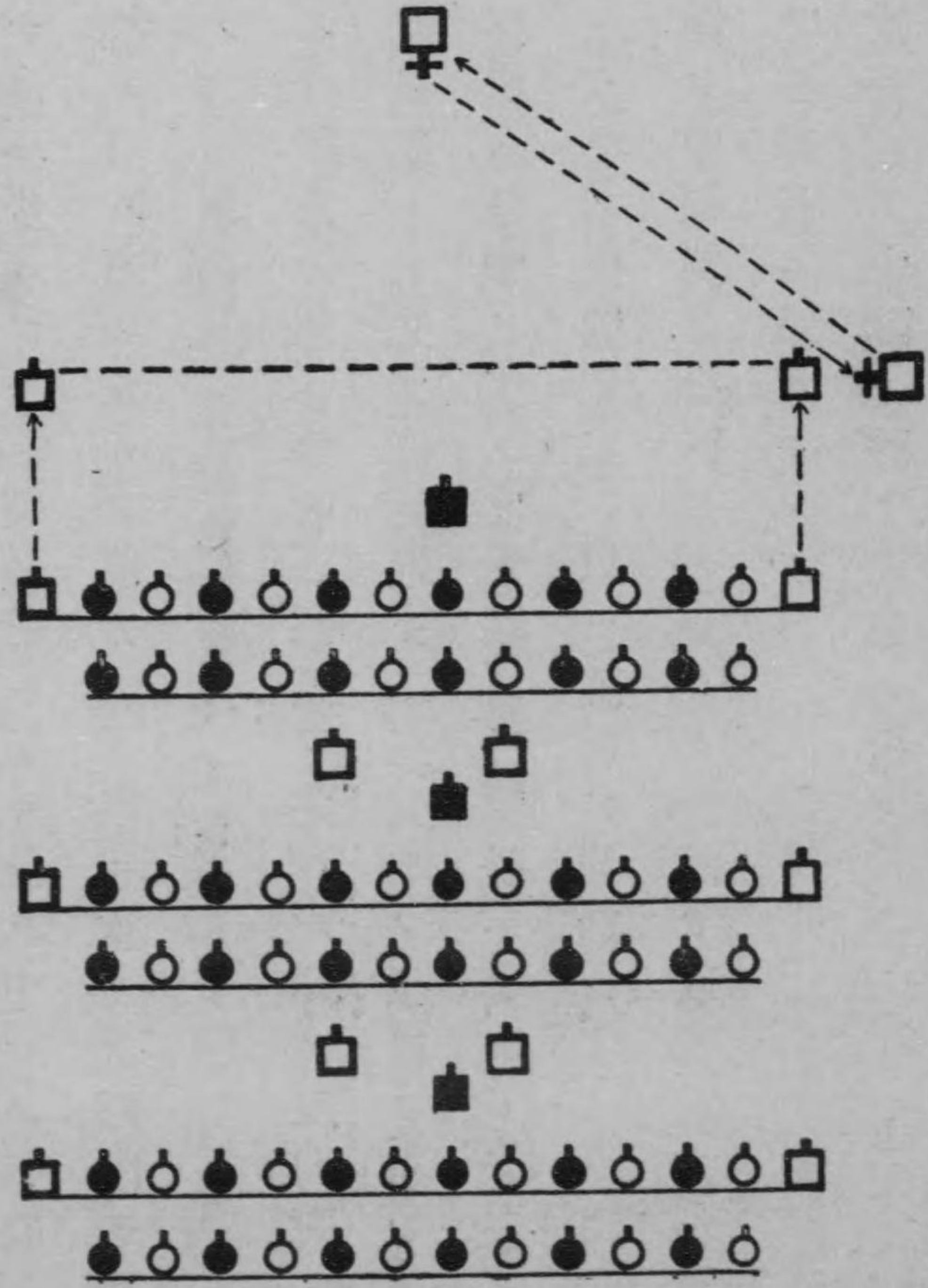


圖 六 第

附錄 中隊教練



ルコトナク、小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就キ銃ヲ下ロス。但後列及押伍列ニ在ル者ハ正シク前方ノ兵卒ニ重リテ距離ヲ取リ右(左)ノ方ニ整頓ス。

整頓翼ノ分隊長ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲メ反對翼ノ分隊長ヲ目標トシ、先ヅ己ニ近キ二三兵卒ノ位置ヲ正シ、要スレバ逐次ニ整頓ヲ正ス。反對翼ノ分隊長ハ要スレバ己ニ近キ二三兵卒ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス。

後方小隊ノ整頓翼ノ分隊長ハ正シク距離ヲ取り、前方小隊整頓翼ノ分隊長ニ重ルモノトス。

「直レ」ノ號令ニテ中隊ハ頭ヲ正面ニ復ス。

其位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右(左)へ準へ・直レ」ノ號令ヲ下ス。

施行上の注意

- 一 各小隊長は先頭小隊長に正しく重なるものとす。
- 二 整頓の規定に依れば小隊の整頓を正しくするは、専ら分隊長の任務なるが如くなれども、必要あるときは小隊長及中隊長は自ら之に任ずるものとす。

第二 擔銃及び立銃(第五十八圖自其一至其四)(第五十九圖自其一至其四)

第三 捧銃及び立銃(第六十圖自其一至其二)(第六

十一圖自其一至其三

第四 行進

【步兵操典第八十五】 直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル。若左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示スベシ。

中隊長ハ號令ヲ下スニ先チ、通常行進目標ヲ先頭小隊ノ右（左翼分隊長ニ示スモノトス。

中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ、嚮導ハ列兵ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ、與ヘラレタル目標ニ向ヒ若ハ正面ト直角ニ行進ス。

各兵卒ハ嚮導ノ方ニ整頓スル爲メ頭ヲ廻ハスコトナク常

ニ隣兵ニ注意スベシ。然レドモ一般ニ整頓ハ歩長及速度ノ齊一ノ間隔ノ保存トニ依リテ保チ得ルモノトス。後方小隊ノ嚮導ハ其前方小隊ノ足跡ヲ踏ミ常ニ八歩ノ距離ヲ保ツベシ。

行進中嚮導ヲ他ニ取ルヲ要スルトキハ、嚮導右（左）ノ號令ヲ下ス。

【步兵操典第八十三】 停止間及ビ行進間ニ於テ、中隊ハ右（左）向ヲ爲セバ偶數兵奇數兵ハ奇數兵（偶數兵）ノ右（左）ニ出デ伍ヲ組ミ四兵卒相併ビ側面向トナル。

翼分隊長及ビ押伍列ニ在ル者ハ各其位置ニ在リテ右（左）向

ヲ爲ス。

側面向ニ在リテ左(右)向ヲ爲セバ伍ヲ解キ正面向トナリ。兵卒各自ニ右(左)ノ方ニ整頓ス。

【步兵操典第八十四】 中隊後向ヲ爲セバ翼分隊長及ビ缺伍ハ前列ニ就ク。

【步兵操典第八十六】 側面向ヨリ正面向ニ移リ續キテ行進スルトキ、要スレバ嚮導ヲ示スベシ。

【步兵操典第八十七】 側面向ノ行進ニ在リテハ、各兵卒ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓シ、嚮導ノ後ロニ在ル兵卒ハ其足跡ヲ踏ミテ行進シ、其他ノ兵卒ハ列中ニ在リテ互ニ重リ直前ニ

在ル兵卒ノ頭ヲ以テ其前方兵卒ノ頭ヲ掩フ如ク行進ス。此  
行進ニ於テ先頭四兵卒ノ整頓不正ナルトキハ其害各列ノ  
整頓ニ及ブモノトス。

併列縦隊ノ行進ニ在リテハ通常基準小隊ヲ示スモノトス。  
【步兵操典第八十八】 斜行進ニ在リテ各兵卒ノ位置正シキ  
トキハ其肩互ニ平行シ、右(左)斜行進ニ在リテハ各兵卒ノ右  
(左)肩其右(左)隣兵ノ左(右)肩ノ後ロニ在ルモノトス。  
各兵卒ハ常ニ斜行スル方ニ整頓ス。

直行進ニ復シタルトキ、要スレバ嚮導右(左)ノ號令ヲ下ス。

【步兵操典第八十九】 行進間兵卒ノ守ルベキ要件左ノ如シ、

嚮導何レノ方ニ在ルモ常ニ頭ヲ正シク保ツコト。  
整頓線ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ、反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フルコト。  
整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ回復スルコト。

若シ歩ノ違ヒタルトキハ蹈替ヲ爲シ速ニ整頓翼ノ方ナル隣兵ノ歩ニ準フベシ。蹈替ヲ爲スニハ後ロノ足ヲ前ノ足ニ引著ケ前ノ足ヨリ行進ス。駟歩ニ在リテハ片足ニテ二步行進ス。足蹈間ニ在リテハ駟歩間ノ方法ニ準ズ。

【步兵操典第九十】「歩調止メ」ノ號令アルトキ野外ニ在リテハ必ズシモ歩ヲ揃フルヲ要セズ。  
【步兵操典第九十一】中隊ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス。

中隊——止レ。

中隊ハ停止シ兵卒各自ニ嚮導ノ方ニ整頓ス。側面向ニ在リテハ動クコトナシ。

【步兵操典第九十二】側面向ニ在リテ行進セルトキ之ヲ止メ直ニ正面ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス。

左(右)向ケ——止レ。

中隊ハ停止シ左右向ヲ爲セバ、伍ヲ解キ正面向トナリ、兵卒



各自ニ右(左)ノ方ニ整頓ス。

第五 方向ヲ換ヘ

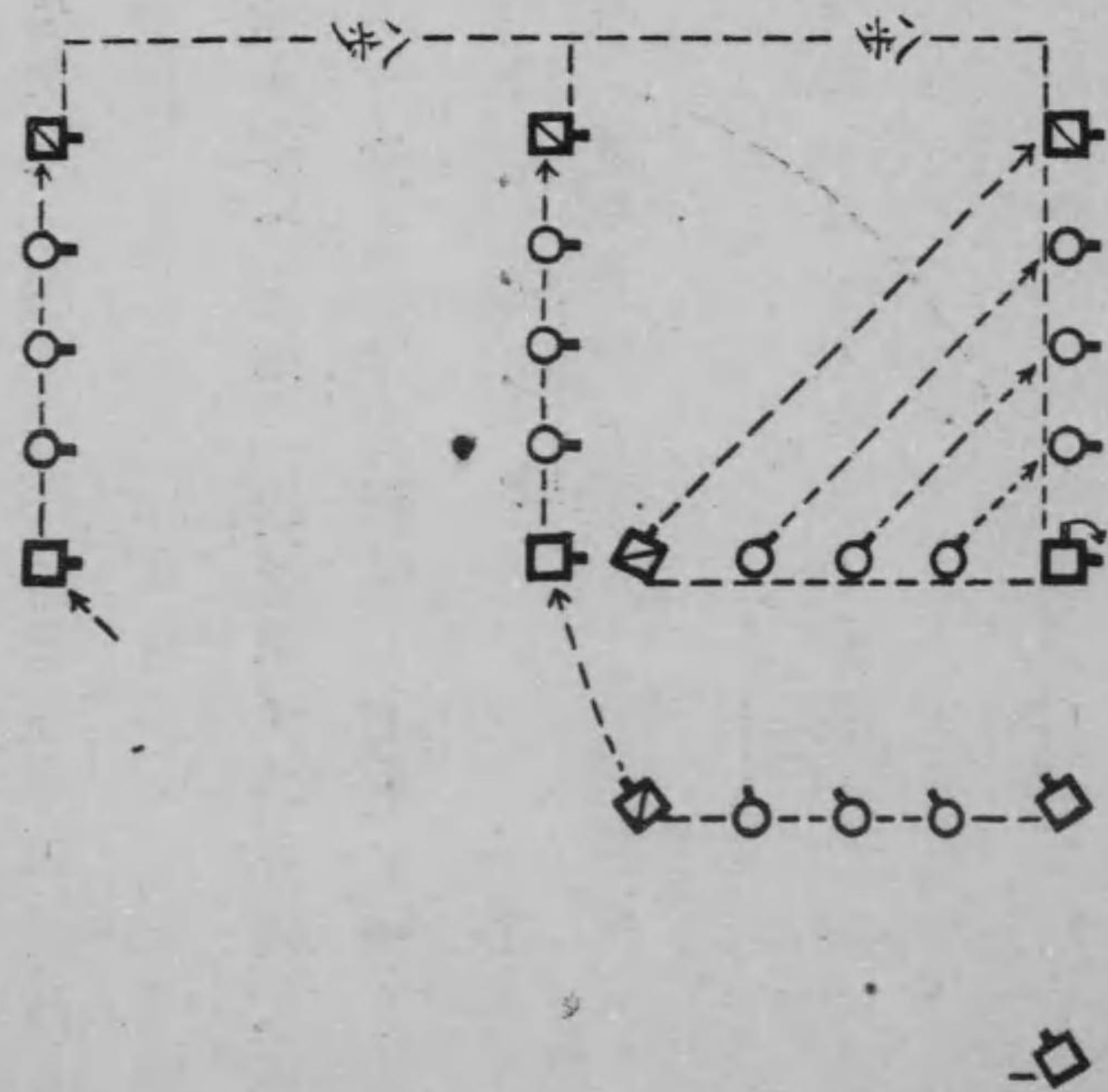
【步兵操典第九十四】 方向ヲ換フルニハ、停止間ニ在リテハ銃ヲ擔フコトナク歩度ヲ伸バシテ行ヒ、若シ駈歩ヲ以テ行フヲ要スルトキハ豫令ノ次ニ「駈歩」ノ號令ヲ加ヘ、行進間ニ在リテハ常ニ駈歩ヲ用フ、而シテ駈歩ヲ爲ストキハ豫令ニテ劍鞘ヲ握ルモノトス。

【步兵操典第九十五】 中隊縦隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス。

右(左)ニ方向ヲ換ヘ——進メ。

停止間ニ在リテハ、先頭小隊ノ軸翼ニ在ル分隊長ハ右(左)向ヲ爲シ、其他ハ半バ右(左)向ヲ爲シ捷路ヲ經テ遂次新線ニ到リテ停止シ、其右(左)隣兵ニ整頓ス。後方小隊ハ兵

第七 圖



卒各自ニ己ノ占ムベキ位置ニ到リ右(左)ノ方ニ整頓ス。第七

行進間ニ在リテハ先頭小隊ハ方向ヲ換へ續キテ行進シ、後

方小隊ハ先頭小隊ト 第八圖

同所ニ到リ號令ナク

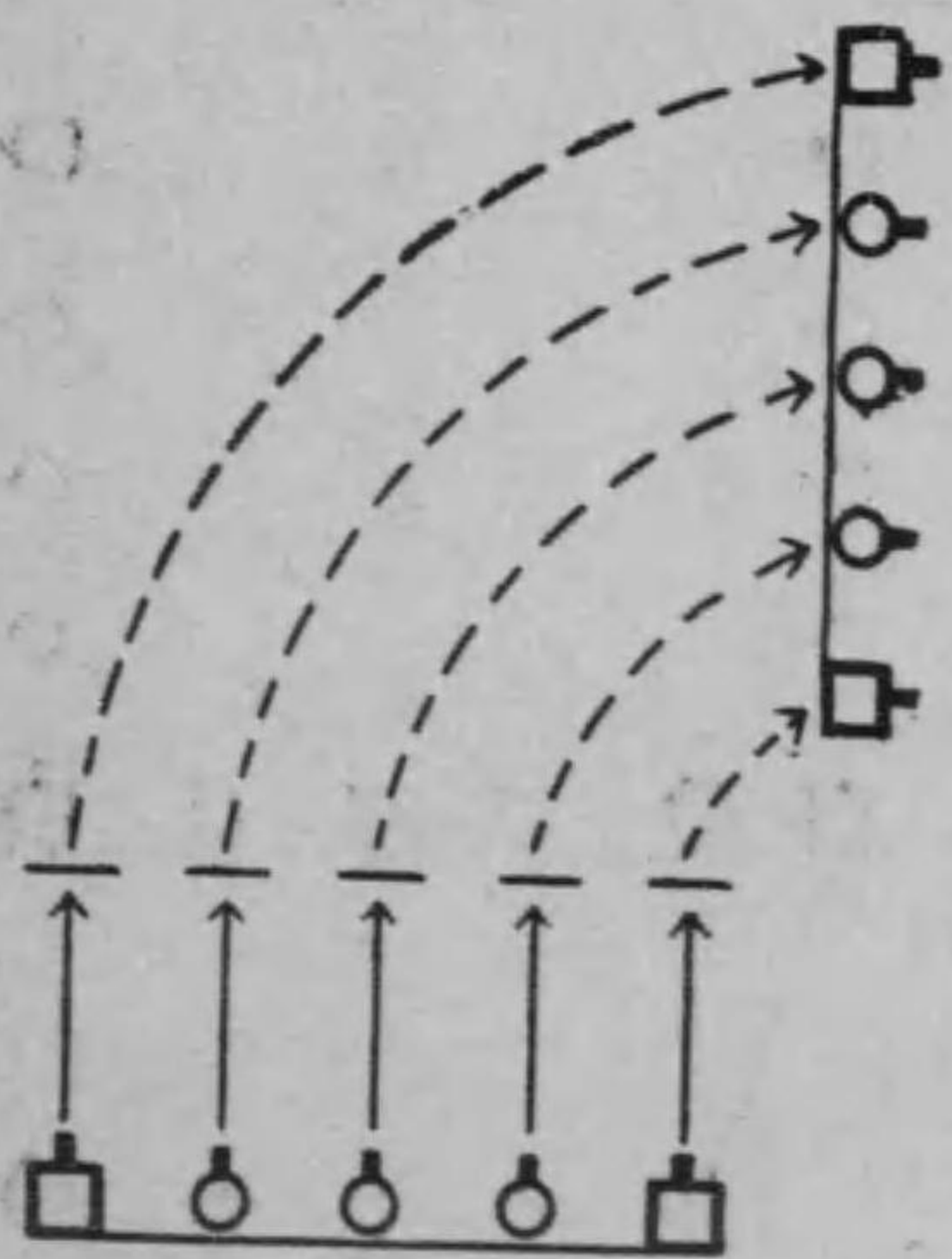
シテ方向ヲ換へ先頭

小隊ニ續行ス。(第八圖)

中隊長ハ先頭小隊ノ

方向ヲ換へ終ラント

スルトキ要スレバ嚮



導ヲ示ス。

施行上ノ注意

一 左に方向變換を行ふときは右と反對の方法を取るものとする。

第三節 併立縦隊(應用隊形)に於ける諸動作

第一 併立縦隊を作る

【歩兵操典第百一第三項】 側面縦隊(第五圖)ヨリ同方向ニ併列縦隊ヲ作ラシムルニハ、併立縦隊作れ進メ」ノ號令ヲ下ス。小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動カザルカ或ハ續キテ行進シ、中央(後尾)小隊ハ右(左)ニ定規ノ間隔ヲ得ル如ク進出ス。

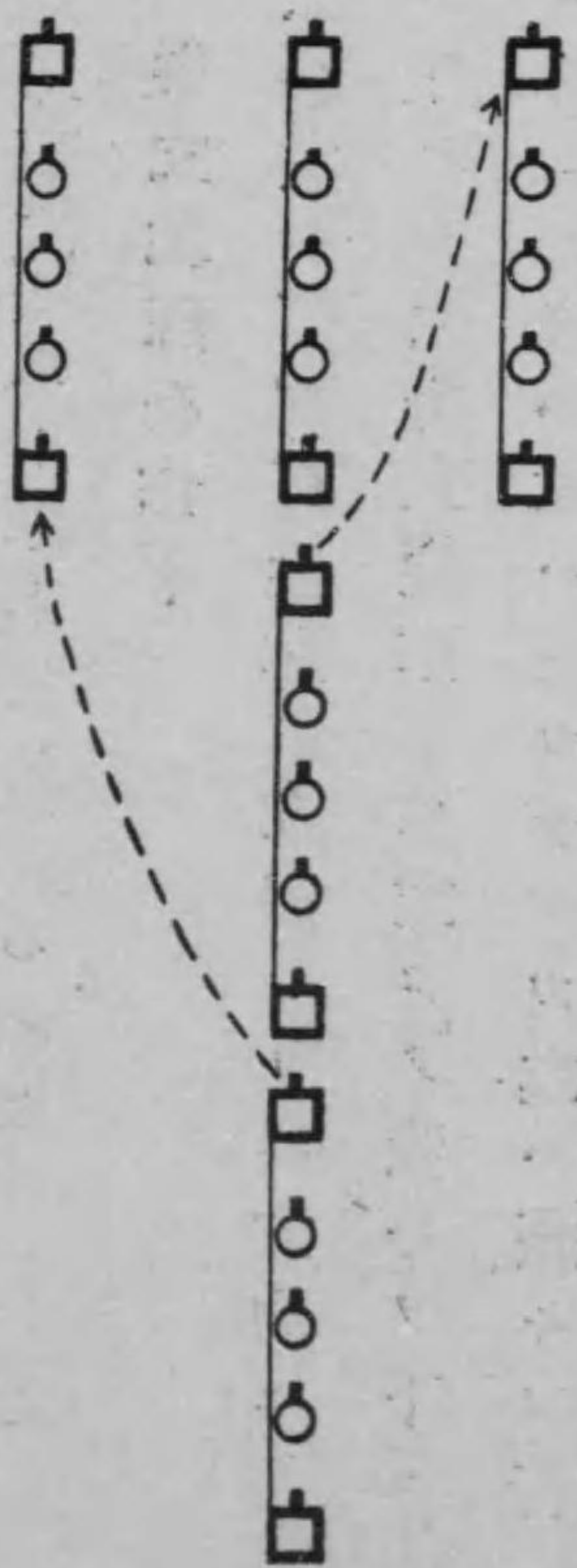
第九圖其(一)

第九圖(其(一))

一側ニ併立  
 縦隊ヲ作ラ  
 シムルニハ  
 「右(左)へ併立  
 縦隊作れ進  
 メ」ノ號令ヲ  
 下ス。(第九圖其(二))

施行上の注意

一 左の一侧に併立縦隊を作るときは、右と反対の方法を



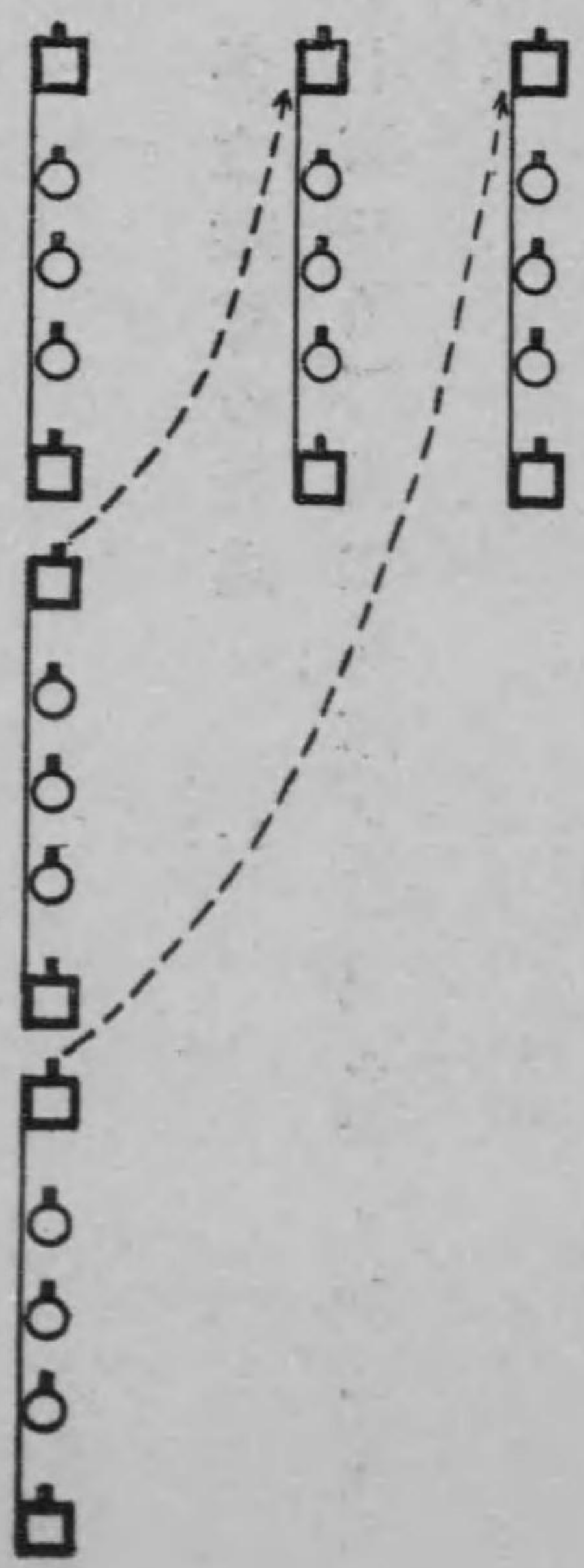
取るものとす。

二 行進間に於て行ふときは先頭小隊は速歩・中央(後尾)小隊は駈歩にて兩側或は一侧に進出するものとす。

三 進出し

(其(二))

終れば  
 各小隊  
 の先頭  
 分隊長  
 は基準  
 小隊の



先頭分隊長に整頓し正しく八歩の間隔を取るものとす。

### 第二 併立縦隊の行進

【歩兵操典第八十七第三項】併立縦隊ノ行進ニ在リテハ通常基準小隊ヲ示ス。

#### 施行上の注意

一歩兵操典第八十三第八十七第九十二の規定に依り行ふものとす。

二基準小隊を示すときの一例を左に擧ぐれば、

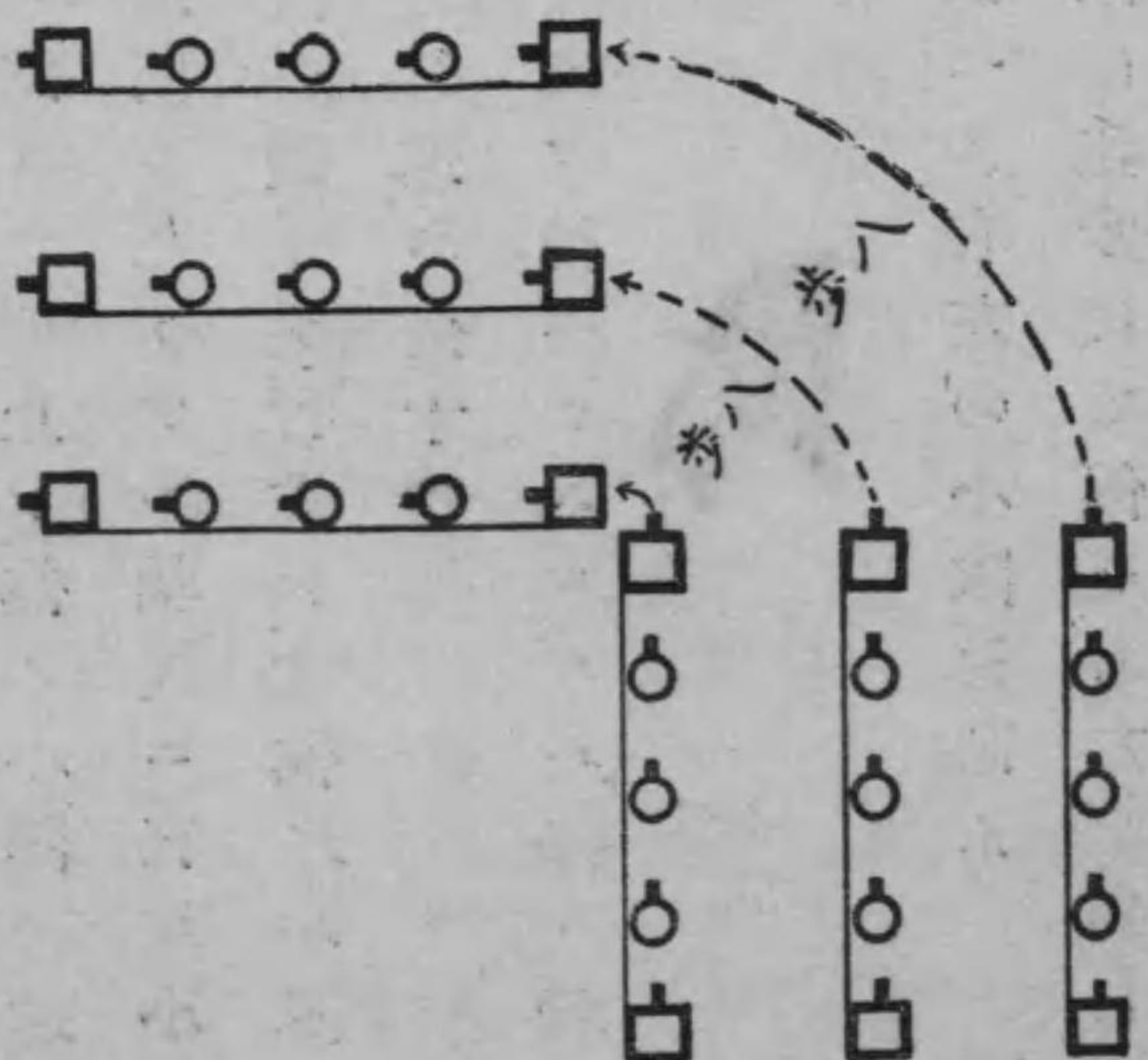
第一小隊(先頭小隊)或は第二小隊(中央小隊)或ハ第三小

隊(後尾小隊)基準と謂ふが如し。第十圖

### 第三 併立縦隊の

#### 方向變換

【歩兵操典第九十六第三項】併立縦隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ、右(左)に方向を換ヘ進メノ號令ヲ下ス。此號令ニテ停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ伍々右(左)ニ方向ヲ



換へ、小隊ノ深サダケ新方向ニ進ミテ停止シ、他ノ小隊ハ遂次其齊頭ニ到リテ停止ス。行進間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換へ續キテ行進シ、其他ノ小隊ハ遂次其齊頭面ニ到リ續キテ行進ス。(第十圖)

【歩兵操典第九十七】少シク方向ヲ換へシムルニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スベシ。

施行上の注意

- 一 軸翼小隊とは方向を換ふべき右(左)の小隊を謂ふ。
- 二 行進間に於ては軸翼小隊は速歩にて伍々右(左)を爲し、其他の小隊は駈歩にて行ふものとす。

三 右に方向變換を行ふときは左と反對の方法を取るものとす。

第四節 横隊(應用隊形)に於ける諸動作

第一 中隊縦隊より横隊を作る

【歩兵操典第九十九】中隊縦隊ヨリ横隊ヲ作ラシムルニハ「横隊作れ進メ」ノ號令ヲ下ス。小隊長ノ指示ニ縦ヒ先頭小隊ハ動かザルカ或ハ續キテ行進シ、中央(後尾)小隊ハ右(左)斜メニ行進シ先頭小隊ノ線ニ出テ之ニ整頓ス。(第十一圖其一) 一側ニ横隊ヲ作ラシムルニハ「右(左)へ横隊作れ進メ」ノ號令ヲ下ス。(第十一圖其二)

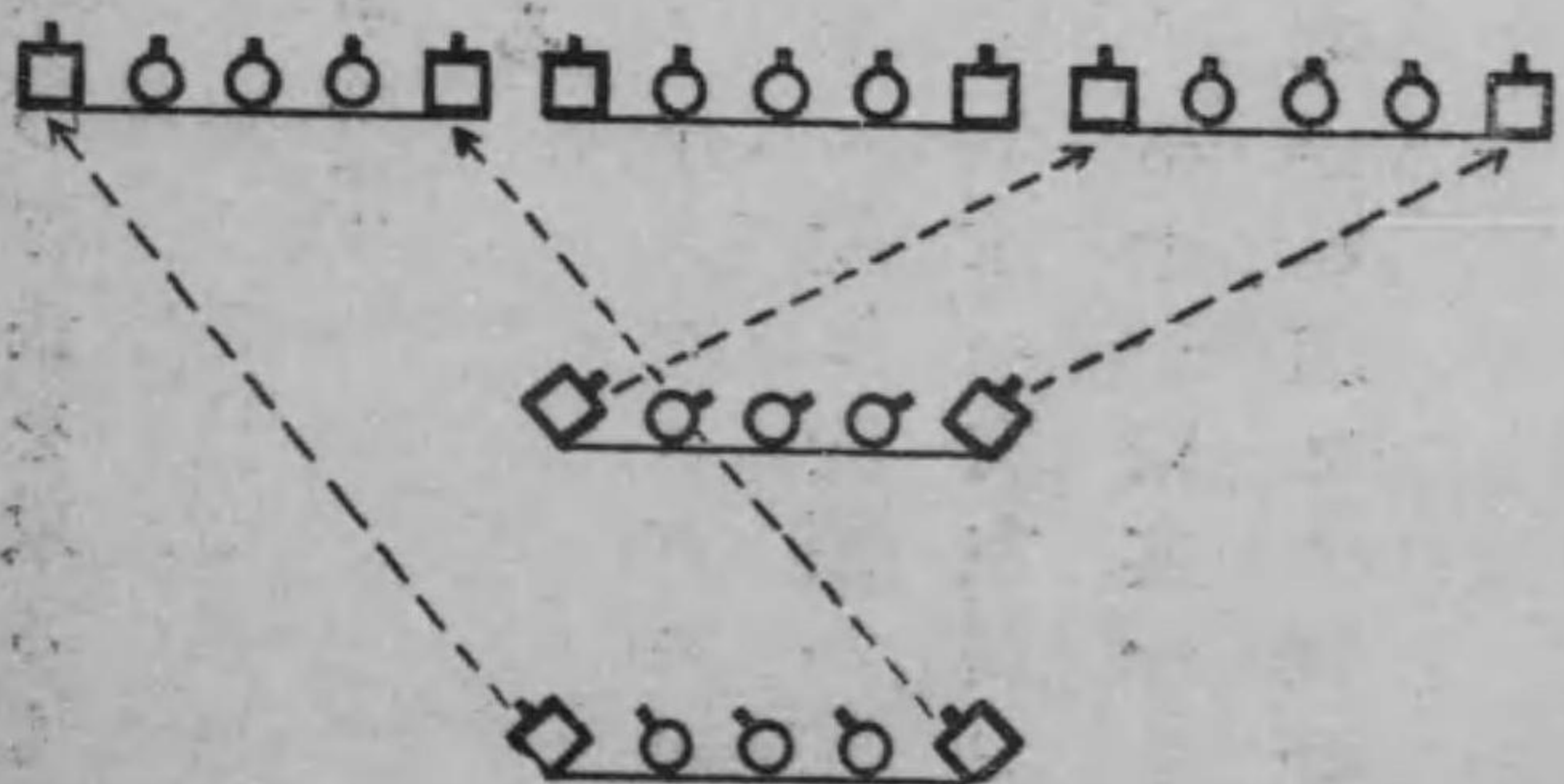
施行上の注意

一行進間に在りては先頭小隊は其儘行進を續け、中央(後尾)小隊は右(左)斜め駈歩にて先頭小隊の線に出て之に整頓す。

二右の側に横隊を作るときは左と反對の方法を取るものとす。

第二 横隊より中隊縦

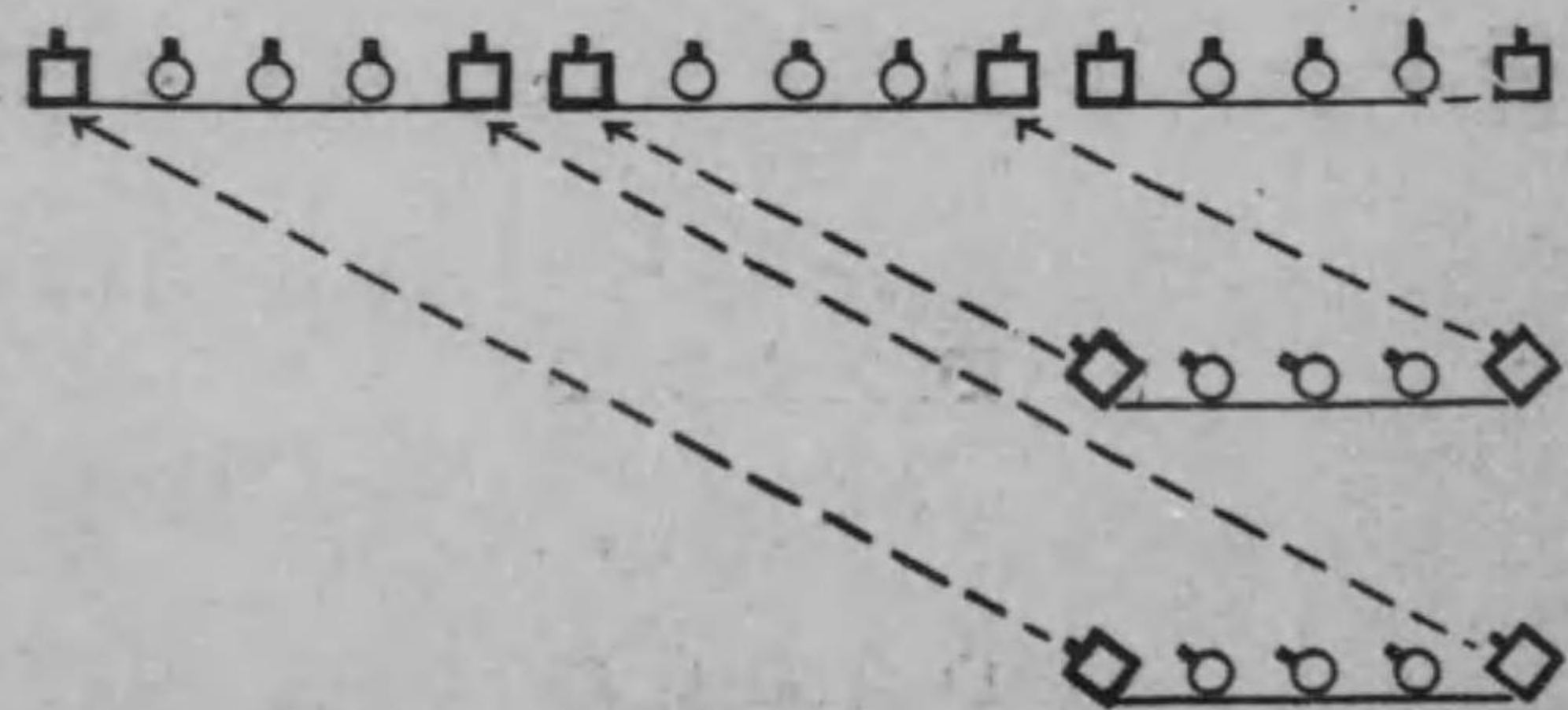
第十圖 (其一)



隊を作る

【歩兵操典第百】 横隊ヨリ中隊縦隊ヲ作ラシムルニハ、中隊縦隊作れ進メノ號令ヲ下ス。小隊長ノ指示ニ從ヒ中央小隊ハ動カザルカ或ハ行進シ、其他ノ小隊ハ捷路ヲ經右(左)小隊ハ中央(後尾)トナリ中隊縦隊ノ定位ニ到ル。第十二圖其(二)

(其二)

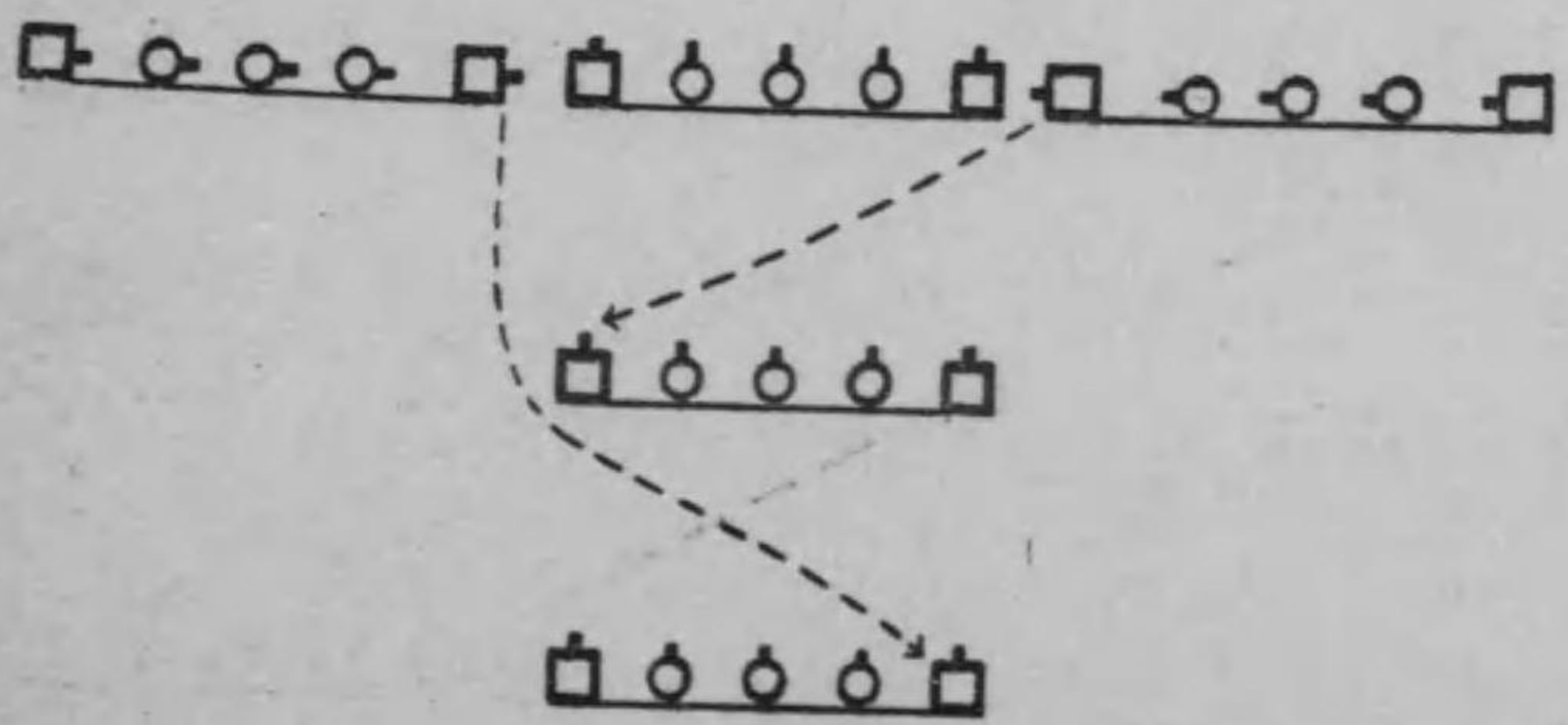


作ラシムルニハ「右(左)ノ中隊縦隊  
作れ進メ」ノ號令ヲ下ス。第十二圖  
其二)

施行上の注意

一行進間に在りては「進メ」の號  
令にて中央小隊は其儘前進  
を續け、兩翼小隊は其場に於  
て若干足踏を爲し適當の跡  
離を得れば右(左)斜め駈歩に  
て先頭小隊に重り、規定の距

第二十圖 其一



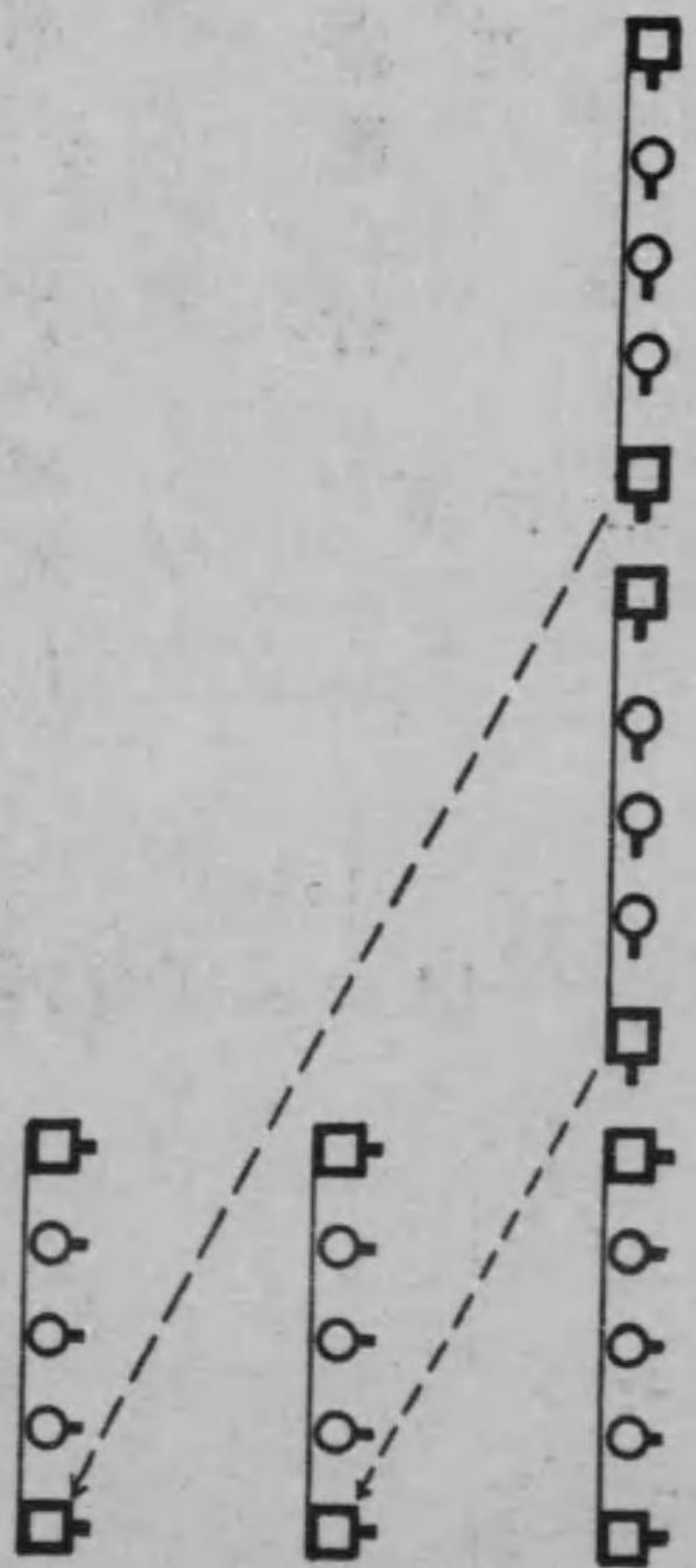
離八歩)を取り、速歩に復し行進を續行するものとす。第  
十三圖其一)

二行進間左の一側に横隊を作るときは右と反對の方法  
を取るものとす。(第十三圖其二)

第三 横隊の整頓

横隊の  
整頓は  
中隊縦  
隊の先  
頭小隊

(二 其)



に準して行ふものとす。(第十四圖)

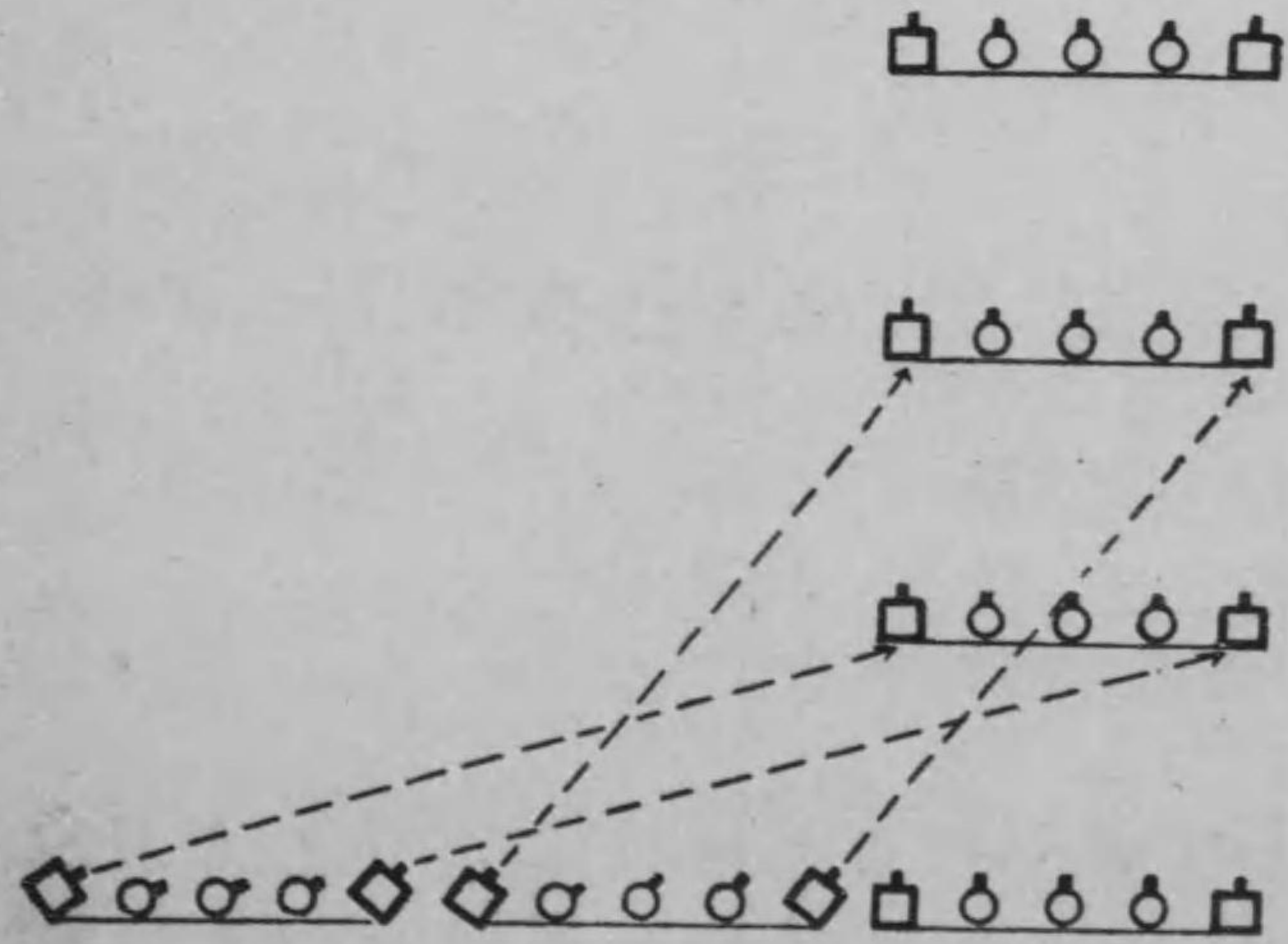
第四 横隊の行進

横隊の行進方法及諸規定は第八に準して行ふものとす。(第十五圖)

第五 横隊の方向變換

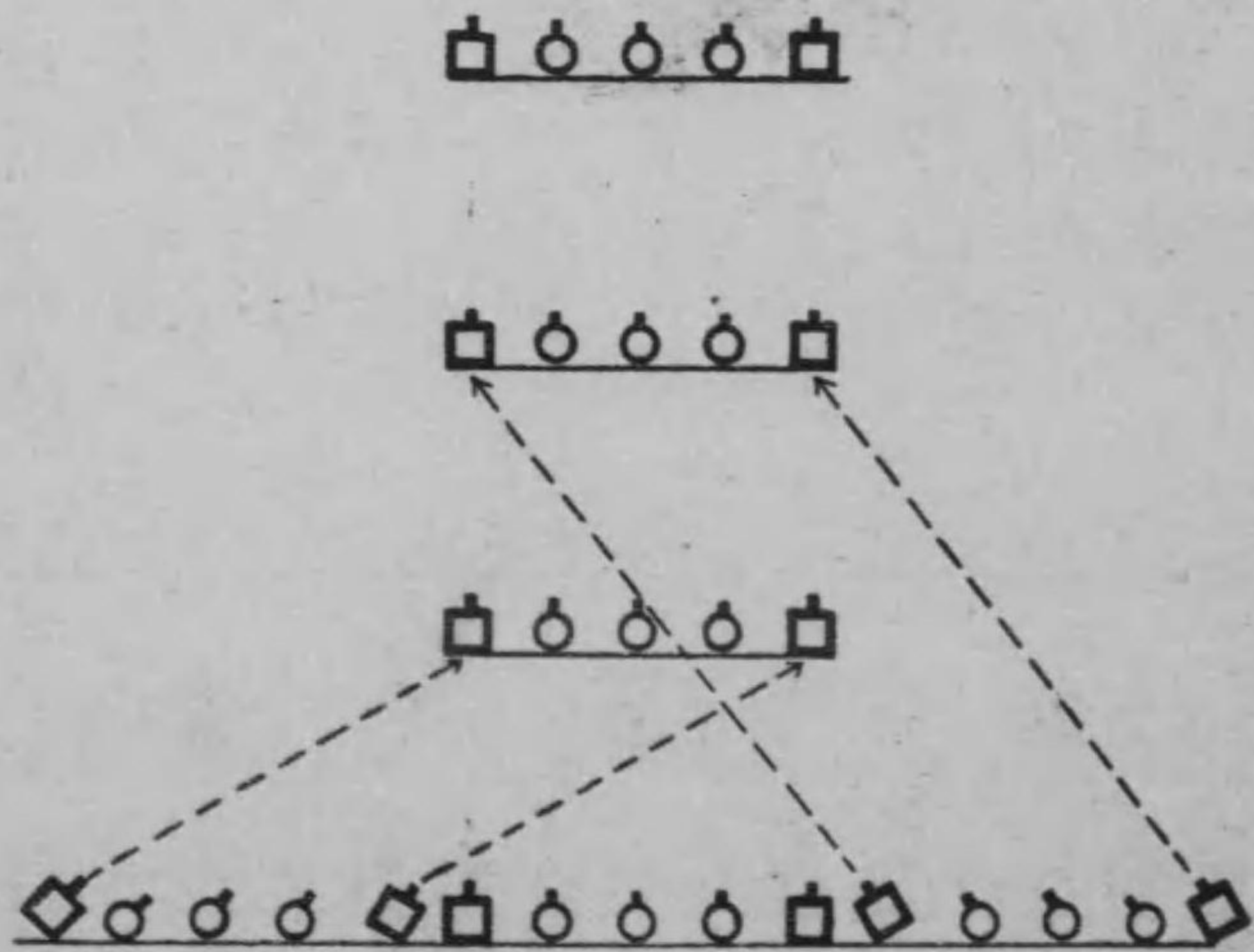
【歩兵操典第九十六】 横隊

(一其) 圖三十第



二一〇

(二其)



二一一

ノ方向ヲ換ヘシムルハニ「右(左)に方向を換ヘ進メ」ノ號令ヲ用ヒ中隊縦隊ノ先頭小隊ニ準シテ之ヲ行フ。但シ行進間ニ在リテハ軸翼ノ者足踏ヲ爲シ、其他ノ者ハ駆歩ヲ以テ遂次新線ニ就キ、中隊長ノ號令ニ依リ前進スル者トス。(第十六圖)

施行上ノ注意



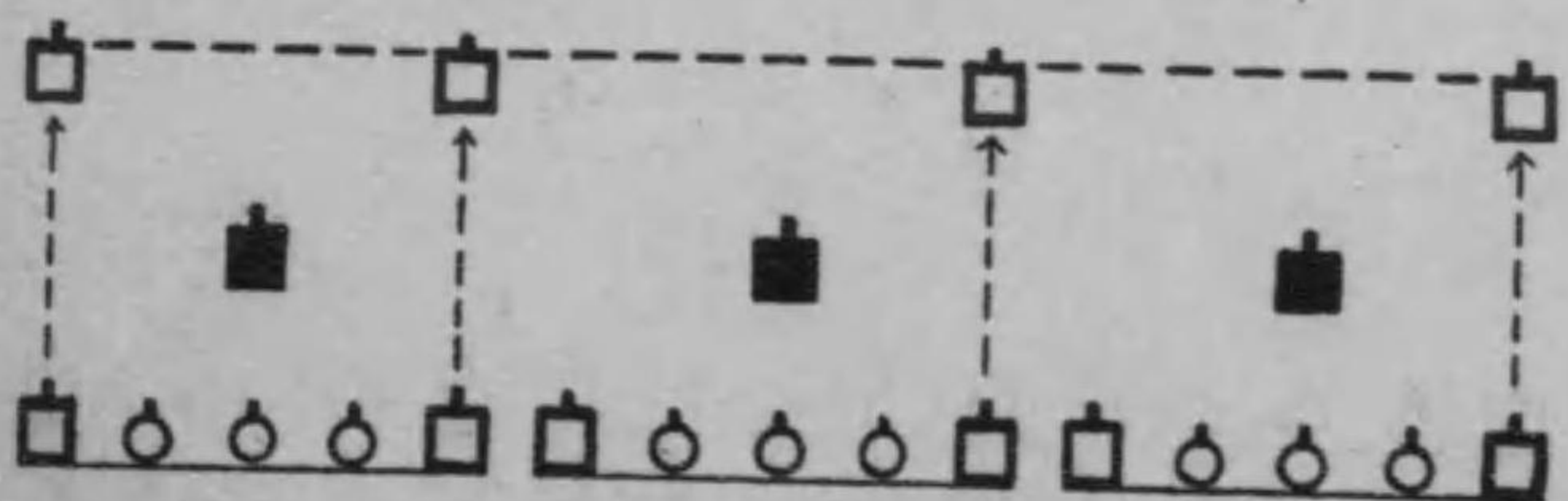
- 一 方向換へ終れば各小隊の分隊長は右翼小隊の分隊長に整頓す。
- 二 左に方向を換ふときは右と反對の方法を取るものとす。
- 三 中隊長は各小隊方向を換へ終らんとするときに於て「前へ進め」の號令を下すものとす。

第五節 側面縦隊(應用隊形第五圖)

に於ける諸動作

第一 側面縦隊の行進

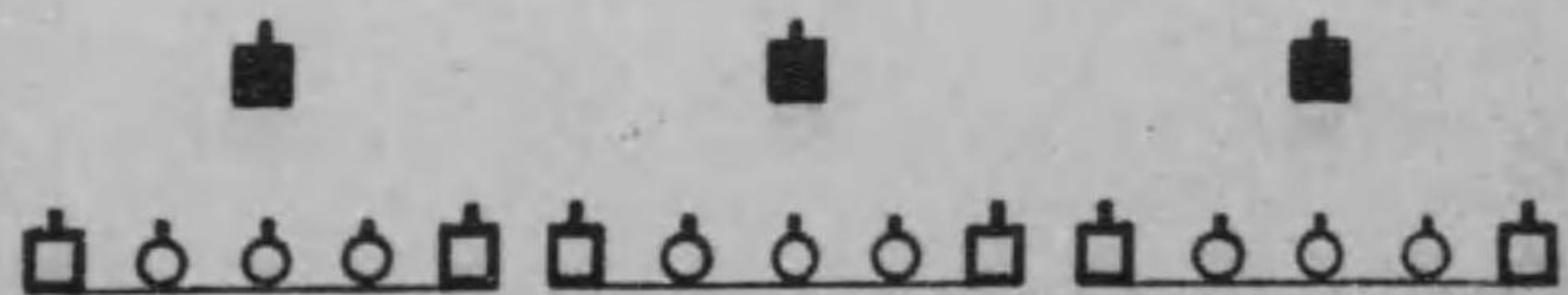
第十圖



二二三

【步兵操典第八十七】側面向ノ行進ニ在リテハ各兵卒ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓シ、嚮導ノ後ロニ在ル兵卒ハ其足跡ヲ踏ミテ行進シ、其他ノ兵卒ハ列中ニ在リテ互ニ重ナリ直前ニ在ル兵卒ノ頭ヲ以テ前方兵卒ノ頭ヲ掩フ如ク行進ス。此行進ニ於テ先頭四兵卒ノ整頓不正ナルトキハ其害各列ノ整頓ニ及ブモノトス。(第五圖)

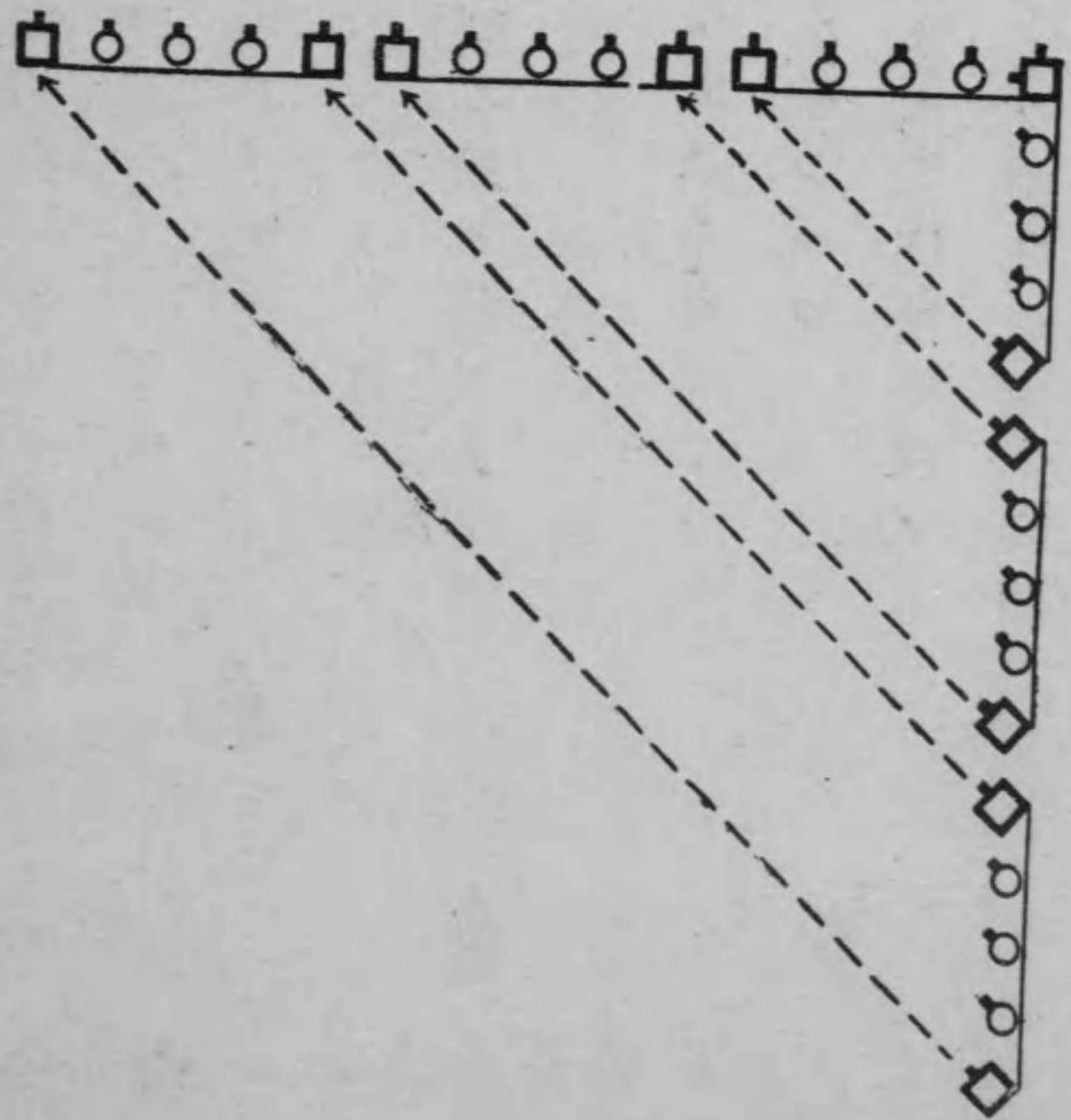
第五圖



二二三

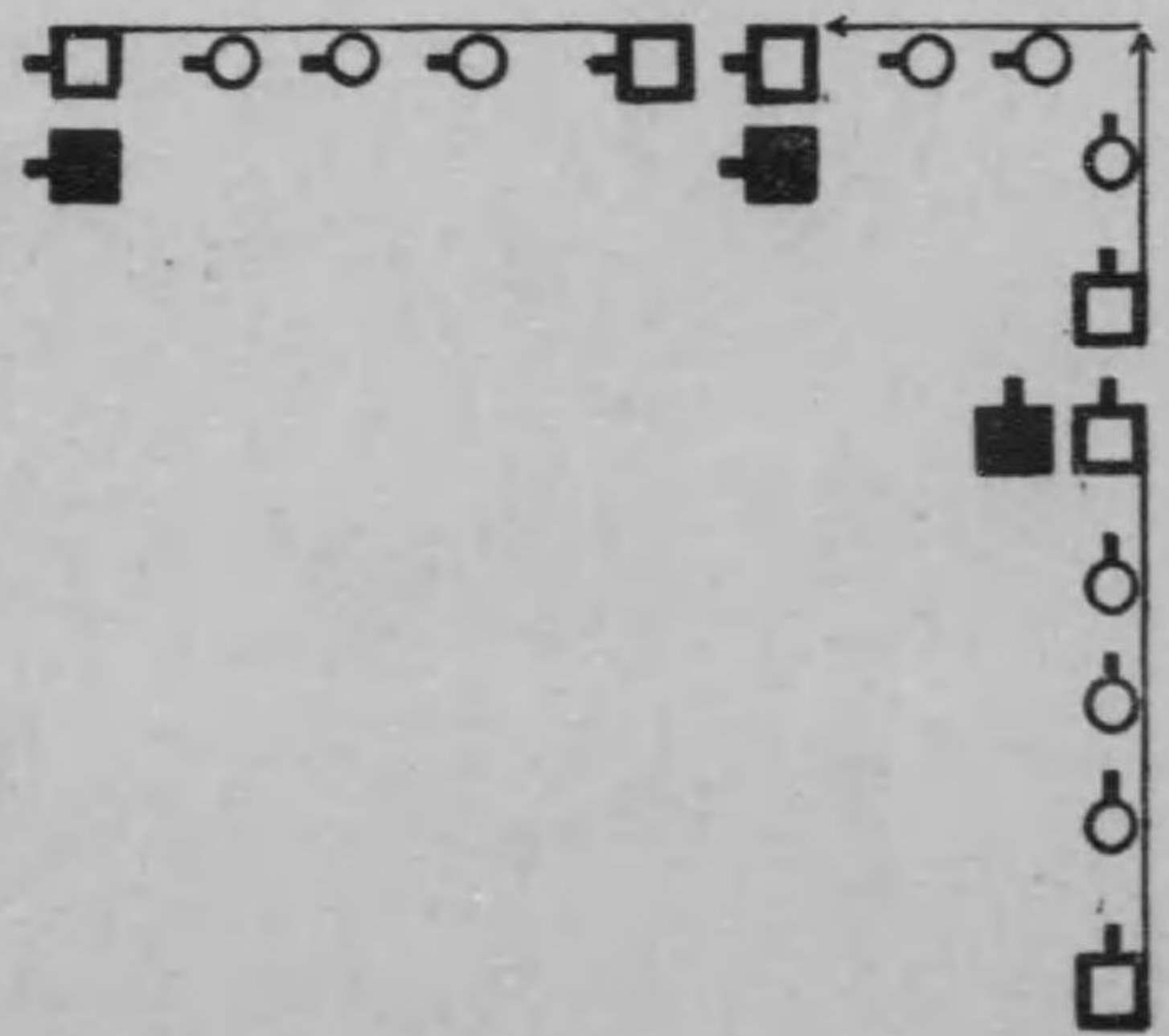
令ヲ下ス。此號令  
ニテ先頭伍ハ小  
ナル環形ヲ歩ミ、  
停止間ニ在リテ  
ハ前進ヲ起スト  
同時ニ以上ノ動  
作ヲ爲シ、旋回軸  
ニ在ル兵卒ハ最  
初ノ數歩ヲ縮メ、  
外翼ニ在ル兵卒

第十六圖



ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常  
ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左  
(右)ニ方向ヲ換へ續キテ行進ス。  
各伍ハ其前ノ伍ト同所ニ到リ  
同法ヲ以テ方向ヲ換フ。(第十七  
圖)

第二 側面縦隊より  
同方向ニ中隊  
の横隊を作る

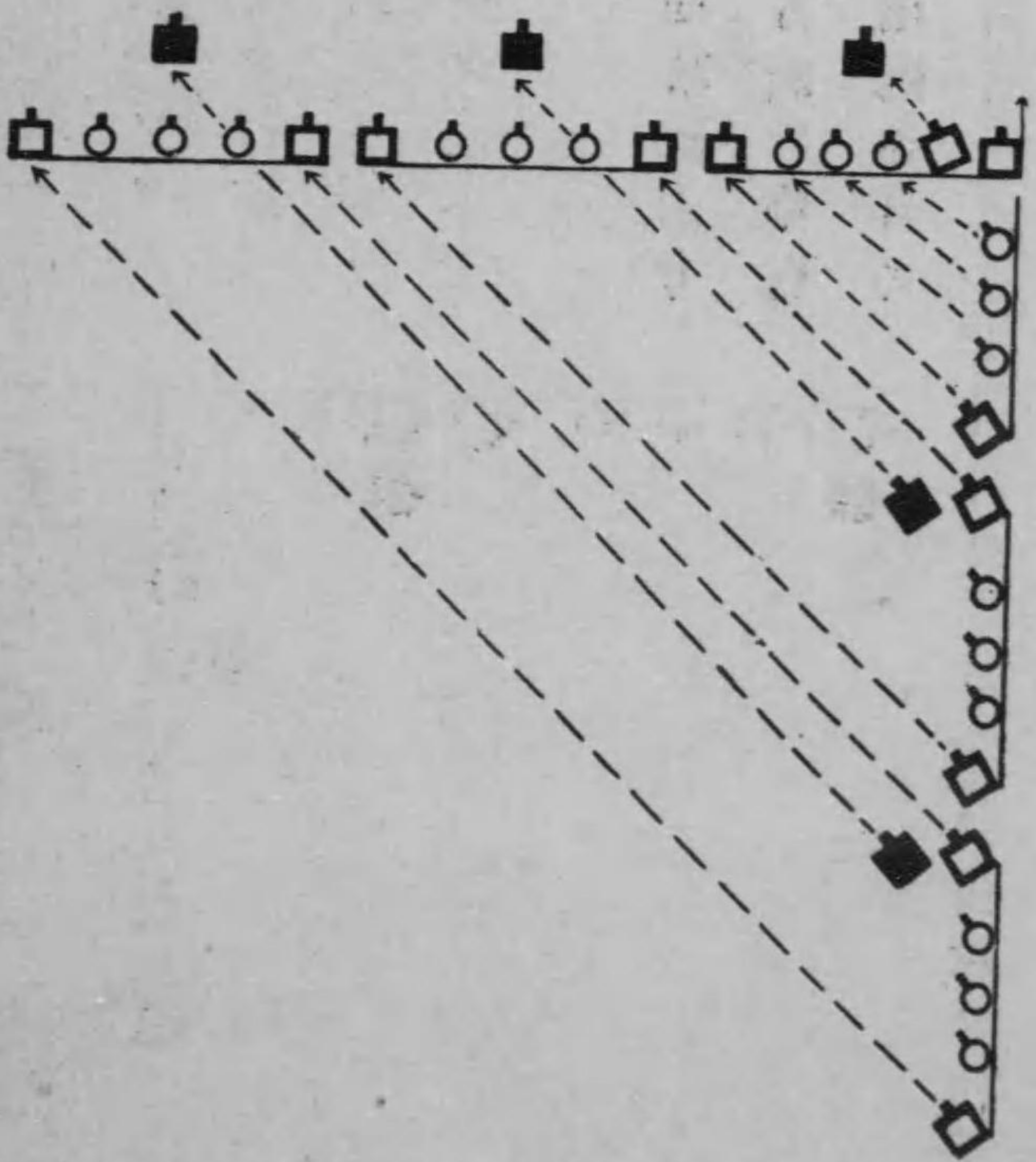


第十七圖

【歩兵操典第百一】 側面縦隊ヨリ同方向ニ中隊ノ横隊ヲ作

ラシムルニハ  
 「右(左)へ並び進  
 メ」ノ號令ヲ下  
 ス。先頭ニ在ル  
 分隊長ハ動カ  
 サルカ或ハ足  
 踏ヲ爲シ兵卒  
 ハ伍ヲ解キ捷  
 路ヲ經遂次新  
 線ニ就キ右左

圖 八 十 第

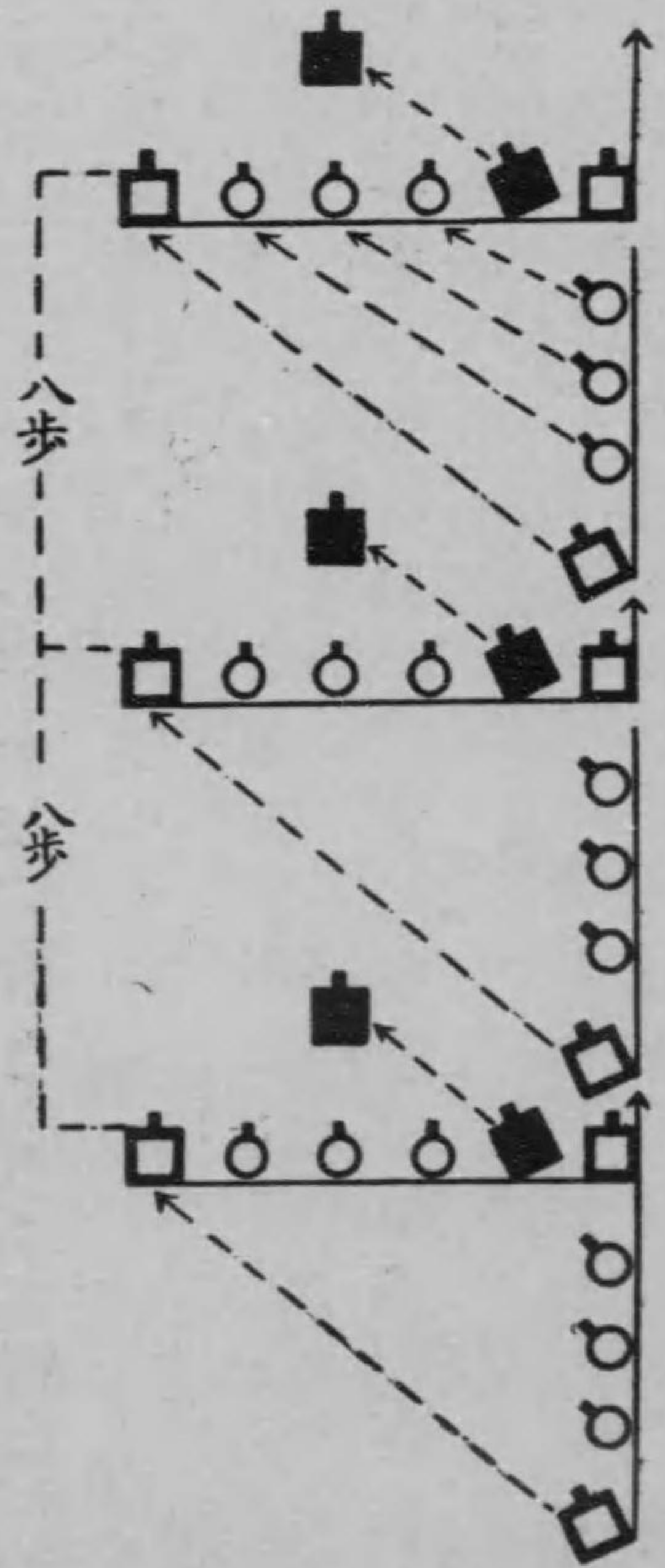


隣兵ニ整頓スルカ或ハ之ニ準ヒテ足踏ヲ爲ス。行進間ニ在  
 リテハ次テ「前へ進メ」ノ號令ヲ下ス。(第十八圖)

施行上の注意

一 停止間にて行ふときは「進メ」の號令にて先頭分隊長ヲ

圖九十第



除く外、中隊ハ一齊ニ半ハ左(右)向を爲すと同時に行進を起し新整頓線に到るものとす。

二 行進間にて行ふときは先頭分隊長は其儘足踏を爲し、其他は一齊に左(右)斜め駈歩にて新整頓線に到るものとす。

三 右に行ふときは左と反對の方法を取るものとす。

### 第三 側面縦隊より同方向に中隊縦隊を作る。

【歩兵操典第百一第二項】 側面縦隊ヨリ同方向ニ中隊縦隊ヲ作ラシムルニハ「中隊縦隊作れ進メ」ノ號令ヲ下ス。小隊長ノ指示ニ從ヒ前項ニ準ジテ小隊毎ニ横隊ヲ作り、後方小隊

ハ定規ノ距離ヲ取ル。但シ行進間ニ在リテハ足踏ヲ爲スコトナシ。(第十九圖)

### 施行上ノ注意

- 一 中隊縦隊の隊形は常に左方に作るを本則とす。若し之を右方に作るときは特に「右へ中隊縦隊作れ」の號令を下すものとす。
- 二 各小隊の兩翼分隊長は速に先頭小隊より定規の距離を取ることに注意するを要す。

體操教授  
要目準據

# 小學校教練終

大正五年十二月八日印刷  
大正五年十二月十一日發行

【定價金六拾錢】

體操教授要目準據  
小學校教練

著者	二宮文右衛門
作者	木村甚四郎
發行者	東京市京橋區銀座一丁目廿二番地 大日本圖書株式會社
代售者	專務取締役 宮川保全

—製複許不—

發行所

東京銀座  
大日本圖書株式會社  
振替口座東京二一九番

276  
203

終

